

「写真を通じて学ぶ映像身体学の10冊」

現代心理学部 准教授 日高 優



- 1.『ベルクソン哲学の遺言』 前田英樹著(岩波現代全書 2013年)
- 2.『自然の鉛筆』 ウィリアム・ヘンリー・フォックス・トロボット著(赤々舎 2016年)
- 3.『明るい部屋:写真についての覚書』 ロラン・バルト著(みすず書房 1985年, 新版 1997年)
- 4.『Sakura』(写真集) 鈴木理策著(エディション・ノルト 2016年)
- 5.『太陽:野口里佳』(写真集) 野口里佳著(NOHARA 2009年)
- 6.『Tokyo view』(写真集) 鬼海弘雄著(かぜたび舎 2016年)
- 7.『映画=イメージの秘蹟』 前田英樹著(青土社 1996年)
- 8.『記憶と生』 アンリ・ベルクソン著 ジル・ドゥルーズ編 前田英樹訳(未知谷 1999年)
- 9.『身体と空間』 小林康夫著(筑摩書房 1995年)
- 10.『絵画の二十世紀:マチスからジャコメッティまで』 前田英樹著(NHKブックス 2004年)

映像身体学とは、〈知覚〉を巡り拓かれた、ひとつの思考の領域である。世界は、それを知覚する身体、身体を持った人間に対して、顕われてくる。写真という映像も、それを知覚して見る身体がなければ、写真として生きられない。写真という映像の原理はとてもシンプルで、光という質料の運動を押しとどめたものだ。出発点は光であり、カメラという機械による知覚こそが写真の本質。人間を介さない世界に対する直接性ゆえに、写真は人間にとって眩目すべき存在となる。要するに、写真を通じて、映像身体学を学ぶとは、光を通じて世界に、人間のありように深く降りてゆき為される営為なのだ。機械による知覚と身体による知覚との本性の差異を捉えるところで潜ったうえで、写真家という人間に現実化され生み落とされる写真映像を観るのである。

1は、直接は写真を扱わないが、生きて思考することのありようや方法、意味とを伝える。それと共に、知覚、持続、記憶といった映像身体学のエッセ

ンスを凝縮させる。ところで、写真は光の運動を押しとどめたものという事実は、デジタル時代の現在も変わりはないが、見えにくくなった。光という出発点を改めて感じるために、写真術開発者による世界初の写真集2、写真論の必読の3、現代作家の写真集4~6をご堪能あれ。7・10は、映像身体学の理論、並びにその鮮やかな展開を、正確かつ瑞々しい硬質の美しさで示す。7は難しくも感じられようが、果敢に挑戦するのも大学生らしく良からう。第三章「存在の静止について」は、映画の中の写真を論じながら、秀逸な写真論となっている。7を支える哲学の学びを深めたい方には、8をすすめる。「解題」も素晴らしい。9は写真の時間、光という質料の問題を、作品論のうえに結晶化させる論考を収める。10は、写真なる映像がいかに絵画を内側から変革させたか、知覚の問題から書き起こしながら、「絵画は何のために在るのか」という問いへと、画家たちの傑出した仕事を通して、読者を運んでくれる。

[Information]

2017年秋、新座図書館が変わりました!

少し



1階・レイアウト変更

1階閲覧エリアのレイアウトが変わりました。通路を広げ通りやすくなり、閲覧機の配置を変え、資料の企画展示もできるようになりました。図書館の奥(ゲート入って左折)までぜひ見に来てください。



1階・ノートPC増設

1階のノートパソコン席が増えました。今まであったPC席も、画面の大きいデスクトップパソコンになって使いやすくなりました。秋学期に入り、毎日たくさんの方に利用されています。



2階・PCヘルプデスク スタート

2階しおりカウンターに「PCヘルプデスク」ができました。PC貸出に加え、パソコンに関するいろいろな質問もできるようになって、さらに利用しやすくなりました。

Your Library 第41号(通号100) 発行日 2017年12月8日

編集 小林 憲太郎 (図書館副館長) <http://library.rikkyo.ac.jp/>
 発行人 豊田 由貴夫 (図書館長) 連絡先 TEL 03-3985-2628
 発行 立教大学図書館 印刷 立教プリンティングステーション



Your Library

立教大学図書館だより No.41 | 2017.12.08 | ISSN 1883-1303

特集

通号100号

記念

読書ナビ

日高 優准教授

現代心理学部

~創刊号 'カレイNo.1' から

最新号 'Your Library 第40号 (通号99) までを振り返る~



